

材料の力学1 Step2,3 第10回演習問題 (2018/7/3 実施)

- [1] 図1に示すようなはりについて考える。両端（O点, C点）で単純支持されており、A点, B点には集中荷重 P が作用している。はり中央の、原点から $3L/2$ の点を点Mとする。はりの断面は直径 d の丸棒である。また、はりの弾性係数を E とする。このとき以下の問い合わせに答えよ。

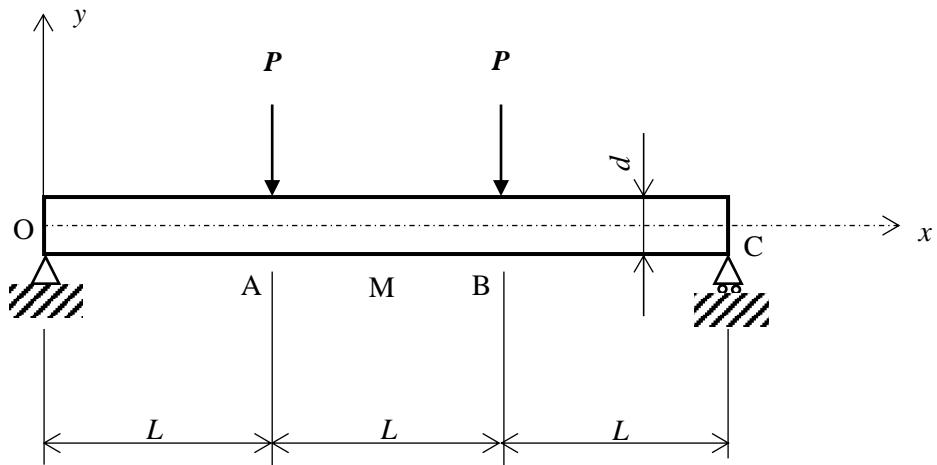


Fig.1 両端単純支持のはり

- (1) はりの断面2次モーメント I_z を求めよ。

以下の問題でははりの断面2次モーメントを I として解答せよ。

- (2) 対称性に注意してはり全体のSFD, BMDを描け。

- (3) 点Oでのたわみ v_0 , 対称性に注意して点Mにおけるたわみ角 ν'_M , を求めよ。

- (4) M点におけるたわみ v_M を求めよ。

(1) はりの断面 2 次モーメント I_z を求めよ。

図 1.1 に示す円形断面のはりの z 軸に関する断面 2 次モーメントを求める。

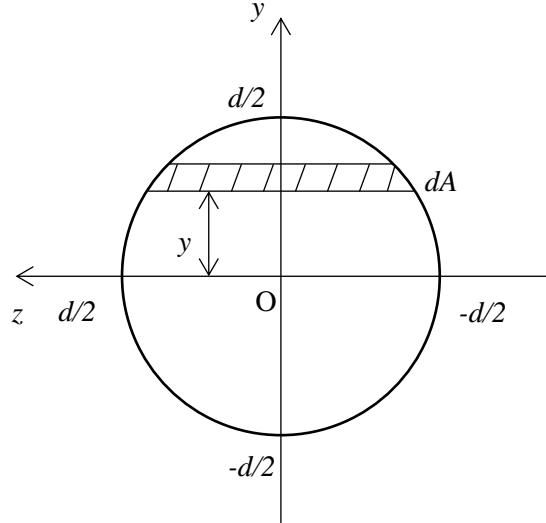


Fig.1.1 断面 2 次モーメントの計算

上図における微小面積 dA は

$$dA = 2\sqrt{\frac{d^4}{4} - y^2} dy \quad (1.1)$$

上図における断面 2 次モーメント I_z は

$$I_z = \int_A y^2 dA = \int_{-\frac{d}{2}}^{\frac{d}{2}} 2y^2 \sqrt{\frac{d^2}{4} - y^2} dy \quad (1.2)$$

ここで、

$$y = \frac{d}{2} \sin \theta \quad (1.3)$$

と置き、積分変換すると

$$\begin{aligned} I_z &= \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} \left(2 \cdot \frac{d^2}{4} \sin^2 \theta \sqrt{\frac{d^2}{4} - \frac{d^2}{4} \sin^2 \theta} \frac{d}{2} \cos \theta \right) d\theta \\ &= \frac{d^4}{32} \int_0^{\frac{\pi}{2}} (1 - \cos 4\theta) d\theta = \frac{\pi d^4}{64} \end{aligned} \quad (1.4)$$

となる。

(2) 対称性に注意してはり全体の SFD, BMD を描け.

対称性を考慮すると点 O における反力は点 C における反力は等しいので反力を R_o と置く
とはり全体の FBD は図 1.2 のようになる.

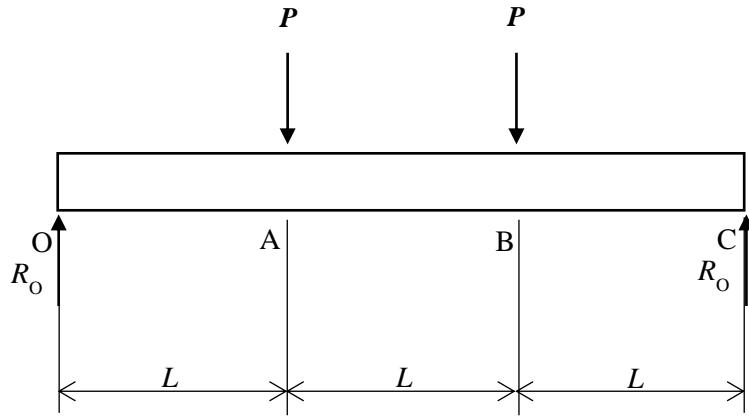


Fig.1.2 はり全体の FBD

力のつり合いと対称性より

$$2R_o - 2P = 0 \quad (1.5)$$

$$\therefore R_o = P$$

となる.

ここで対称性より $0 \leq x < 3L/2$ で FBD を考える.

(i) $0 \leq x < L$ の時

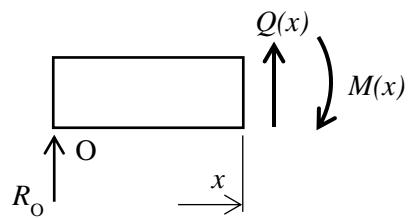


Fig.1.3 FBD

せん断力 $Q(x)$ は力のつり合いより

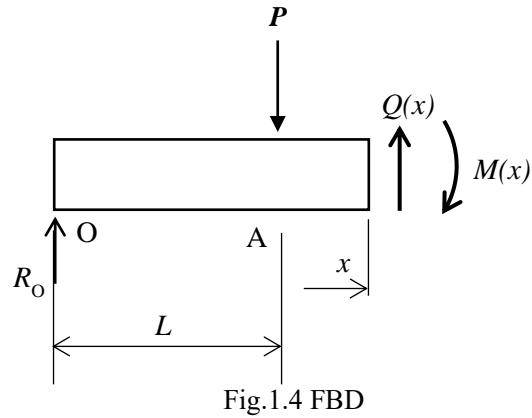
$$R_o + Q(x) = 0 \quad (1.6)$$

$$\therefore Q(x) = -P$$

曲げモーメント $M(x)$ は x でのモーメントのつり合いより

$$\begin{aligned} R_O x + M(x) &= 0 \\ \therefore M(x) &= -Px \end{aligned} \quad (1.7)$$

(ii) $L \leq x < 3L/2$ の時



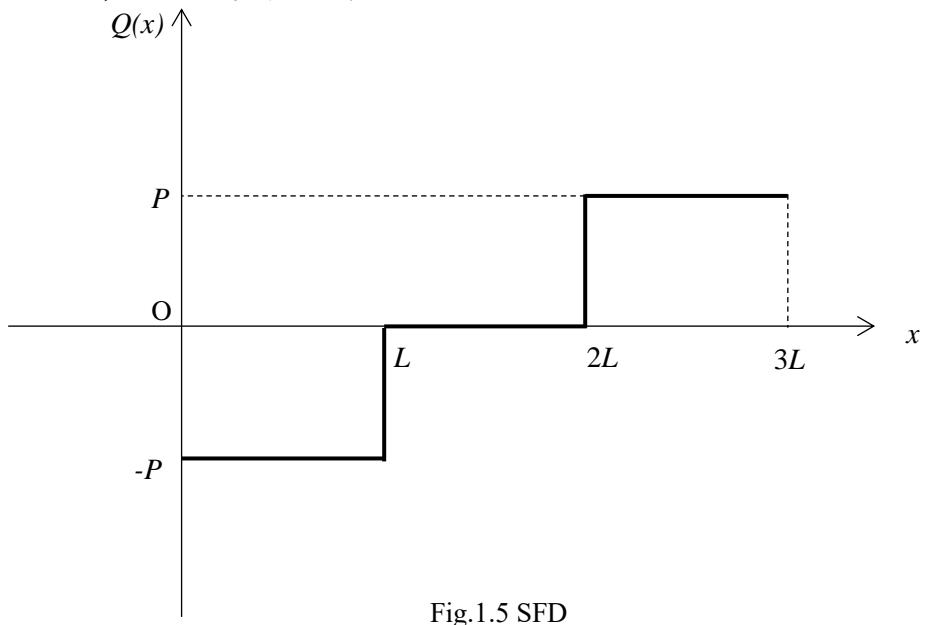
せん断力 $Q(x)$ は力のつり合いより

$$\begin{aligned} R_O + Q(x) - P &= 0 \\ \therefore Q(x) &= 0 \end{aligned} \quad (1.8)$$

曲げモーメント $M(x)$ は x でのモーメントのつり合いより

$$\begin{aligned} R_O x + M(x) - P(x-L) &= 0 \\ \therefore M(x) &= -PL \end{aligned} \quad (1.9)$$

以上より SFD, BMD は以下のようになる.



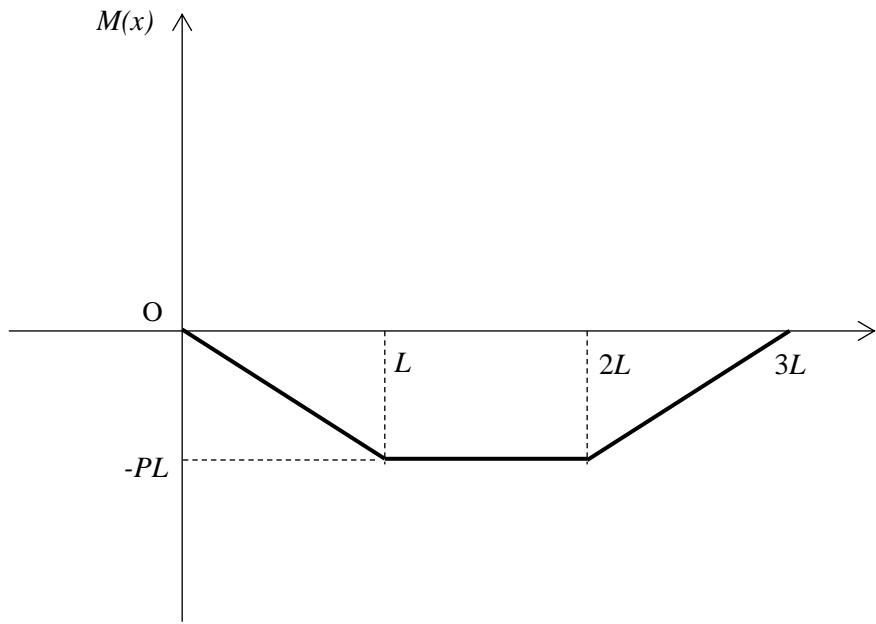


Fig.1.6 BMD

(3) 点 O でのたわみ v_O , 対称性に注意して点 M におけるたわみ角 v'_M , を求めよ.

点 O では支持されているため, たわみ v は

$$v_O = 0 \quad (1.10)$$

点 M では左右対称でかつはりが折れ曲がっていないため, たわみ角 v' は

$$v'_M = 0 \quad (1.11)$$

(4) M 点におけるたわみ v_M を求めよ.

OA 間のたわみを $v_1(x)$, AM 間のたわみを $v_2(x)$ とする.

たわみの基礎式は

$$-EIv''(x) = M(x) \quad (1.12)$$

と表される. 区間ごとに積分してたわみをもとめる.

(i) $0 \leq x < L$ の時

式(1.7)より

$$-EIv_1''(x) = -Px \quad (1.13)$$

となる. これを積分して

$$v_1'(x) = \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{2} Px^2 + C_1 \right) \quad (1.14)$$

$$v_1(x) = \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{6} Px^3 + C_1 x + C_2 \right) \quad (1.15)$$

となる。

(ii) $L \leq x < 3L/2$ の時

式(1.9)より

$$-EIv_2''(x) = -PL \quad (1.16)$$

となる。これを積分して

$$v_2'(x) = \frac{1}{EI} (PLx + C_3) \quad (1.17)$$

$$v_2(x) = \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{2} PLx^2 + C_3 x + C_4 \right) \quad (1.18)$$

となる。

ここで式(1.10)より、

$$v_1(0) = \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{6} P \cdot 0^3 + C_1 \cdot 0 + C_2 \right) = 0$$

$$\therefore C_2 = 0 \quad (1.19)$$

また、式(1.11)より、

$$v_2'\left(\frac{3L}{2}\right) = \frac{1}{EI} \left(PL \cdot \frac{3L}{2} + C_3 \right) = 0$$

$$\therefore C_3 = -\frac{3}{2} PL^2 \quad (1.20)$$

はりは点 A で連続しているので $v_1(L) = v_2(L)$ かつ $v_1'(L) = v_2'(L)$ であるため

$$v_1'(L) = v_2'(L) = \frac{1}{EI} \left(PL^2 - \frac{3}{2} PL^2 \right) = \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{2} PL^2 + C_1 \right)$$

$$\therefore C_1 = -PL^2 \quad (1.21)$$

$$v_1(L) = v_2(L)$$

$$= \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{6} PL^3 - PL^3 \right) = \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{2} PL^3 - \frac{3}{2} PL^3 + C_4 \right)$$

$$\therefore C_4 = \frac{1}{6} PL^3 \quad (1.22)$$

以上より AM 間のたわみは以下のように表される.

$$v(x) = \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{2} PLx^2 - \frac{3}{2} PL^2 x + \frac{1}{6} PL^3 \right) \quad (1.23)$$

ここに $x=3L/2$ を代入して点 M のたわみは

$$\begin{aligned} v\left(\frac{3}{2}L\right) &= \frac{1}{EI} \left(\frac{1}{2} PL \left(\frac{3}{2}L\right)^2 - \frac{3}{2} PL^2 \left(\frac{3}{2}L\right) + \frac{1}{6} PL^3 \right) \\ &= -\frac{23}{24} \frac{PL^3}{EI} \\ \therefore v_M &= \frac{23}{24} \frac{PL^3}{EI} \end{aligned} \quad (1.24)$$

と求まる.

[2] 図のようなはりにおいて点 O では単純支持, 点 A では壁に固定されており, 荷重 P が作用している. はりの断面 2 次モーメント I_z , ヤング率を E として以下の問いに答えよ

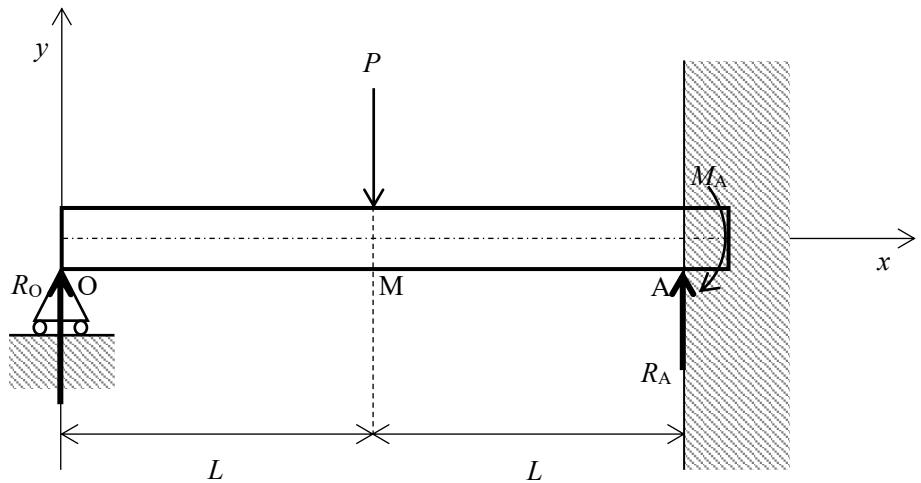


Fig.2 分布荷重を受ける一端固定, 他単純支持はり.

- (1) $0 \leq x \leq 2L$ において, 曲げモーメント $M(x)$ を R_O を用いて求めよ.
- (2) 点 O, A での境界条件を求めよ.
- (3) 反力 R_O , R_A および反モーメント M_A をそれぞれ求めよ.
- (4) $0 \leq x \leq 2L$ において, SFD および BMD をそれぞれ描け.
- (5) はりの最大たわみを求めよ.

[1]

(1) $0 \leq x \leq 2L$ において、曲げモーメント $M(x)$ を R_O を用いて求めよ。

梁全体の FBD を図 2.1 に示す。

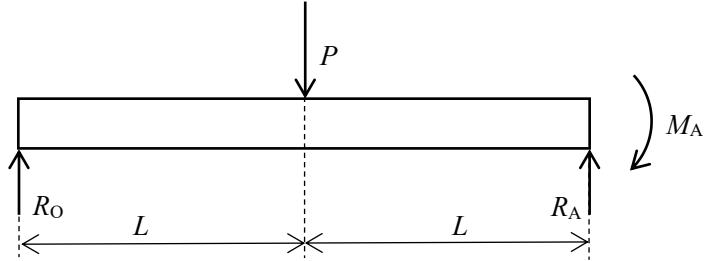


Fig.2.1 FBD.

力のつり合いおよびモーメントのつり合いより

$$R_O + R_A - P = 0 \quad (2.1)$$

$$PL - 2R_A L + M_A = 0 \quad (2.2)$$

それぞれの区間について FBD を描き、力のつり合い、モーメントのつり合いを考える。

(i) $0 \leq x \leq L$ のとき

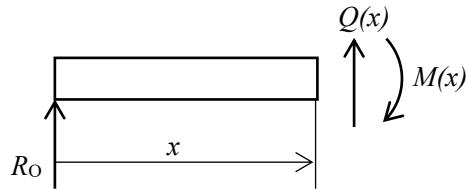


Fig.2.2 FBD($0 \leq x \leq L$).

力のつり合いより、

$$\begin{aligned} R_O + Q(x) &= 0 \\ Q(x) &= -R_O \end{aligned} \quad (2.3)$$

O 点周りのモーメントのつり合いより、

$$\begin{aligned} M(x) - Q(x) \cdot x &= 0 \\ M(x) &= -R_O x \end{aligned} \quad (2.4)$$

(ii) $L \leq x \leq 2L$ のとき

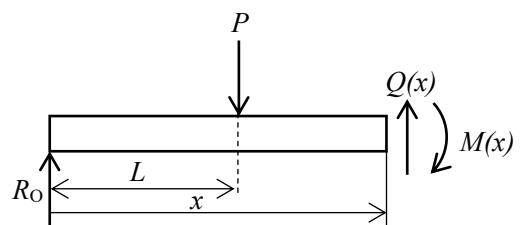


Fig.2.3 FBD($L \leq x \leq 2L$).

力のつり合いより,

$$\begin{aligned} R_O + Q(x) - P &= 0 \\ Q(x) &= P - R_O \end{aligned} \tag{2.5}$$

O 点周りのモーメントのつり合いより

$$\begin{aligned} M(x) - Q(x) \cdot x + PL &= 0 \\ M(x) &= (P - R_O)x - PL \end{aligned} \tag{2.6}$$

(2) 点 O, A での境界条件を求めるよ.

点 O では単純支持なので,

$$x=0 \text{ のとき } v=0 \tag{2.7}$$

点 A では固定端なので,

$$x=2L \text{ のとき } \begin{cases} \frac{dv}{dx} = 0 \\ v = 0 \end{cases} \tag{2.8}$$

(3) 反力 R_O , R_A および反モーメント M_A をそれぞれ求めよ.

それぞれの区間でたわみ, たわみ角をそれぞれ求める.

(i) $0 \leq x \leq L$ のとき

たわみ角は式(2.4)より

$$\begin{aligned} \frac{d^2v}{dx^2} &= -\frac{M(x)}{EI_z} \\ \frac{d^2v}{dx^2} &= -\frac{1}{EI_z}(-R_O x) \\ \frac{dv}{dx} &= -\frac{1}{EI_z}\left(-\frac{1}{2}R_O x^2 + C_1\right) \end{aligned} \tag{2.9}$$

と表せる. たわみは

$$v = -\frac{1}{EI_z}\left(-\frac{1}{6}R_O x^3 + C_1 x + C_2\right) \tag{2.10}$$

と表せる. また境界条件式(2.7)より

$$\begin{aligned} 0 &= -\frac{1}{EI_z}\left(-\frac{1}{6}R_O \cdot 0 + C_1 \cdot 0 + C_2\right) \\ C_2 &= 0 \end{aligned} \tag{2.11}$$

よって,

$$v = -\frac{1}{EI_z}\left(-\frac{1}{6}R_O x^3 + C_1 x\right) \tag{2.12}$$

(ii) $L \leq x \leq 2L$ のとき

たわみ角は式(2.6)より

$$\begin{aligned}\frac{d^2v}{dx^2} &= -\frac{M(x)}{EI_z} \\ \frac{d^2v}{dx^2} &= -\frac{1}{EI_z} \{(P - R_o)x - PL\} \\ \frac{dv}{dx} &= -\frac{1}{EI_z} \left\{ \frac{1}{2}(P - R_o)x^2 - PLx + C_3 \right\}\end{aligned}\quad (2.13)$$

と表せる。たわみは

$$v = -\frac{1}{EI_z} \left\{ \frac{1}{6}(P - R_o)x^3 - \frac{1}{2}PLx^2 + C_3x + C_4 \right\} \quad (1.14)$$

と表せる。境界条件式(2.8)より

$$\begin{aligned}0 &= -\frac{1}{EI_z} \left\{ \frac{1}{2}(P - R_o)(2L)^2 - PL(2L) + C_3 \right\} \\ C_3 &= 2R_oL^2 \\ 0 &= -\frac{1}{EI_z} \left\{ \frac{1}{6}(P - R_o)(2L)^3 - \frac{1}{2}PL(2L)^2 + 2R_oL^2 \cdot 2L + C_4 \right\} \\ C_4 &= \frac{2}{3}PL^3 - \frac{8}{3}R_oL^3\end{aligned}\quad (2.15)$$

と表せる。よって式(2.13)と式(2.14)はそれぞれ以下のように表せる。

$$\begin{aligned}\frac{dv}{dx} &= -\frac{1}{EI_z} \left\{ \frac{1}{2}(P - R_o)x^2 - PLx + 2R_oL^2 \right\} \\ v &= -\frac{1}{EI_z} \left\{ \frac{1}{6}(P - R_o)x^3 - \frac{1}{2}PLx^2 + 2R_oL^2x + \frac{2}{3}PL^3 - \frac{8}{3}R_oL^3 \right\}\end{aligned}\quad (2.16)$$

一方、梁のたわみ角とたわみは連続であるので、 $x=L$ においてたわみ角とたわみは等しくなる。

$$x=L \text{ のとき} \begin{cases} \frac{dv_L}{dx} = \frac{dv_L}{dx} \\ v_L = v_L \end{cases} \quad (2.17)$$

式(2.10), (2.16)より

$$-\frac{1}{EI_z} \left(-\frac{1}{2}R_oL^2 + C_1 \right) = -\frac{1}{EI_z} \left\{ \frac{1}{2}(P - R_o)L^2 - PL \cdot L + 2R_oL^2 \right\} \quad (2.18)$$

と表せる。また、式(2.13), (2.16)より

$$\begin{aligned}
& -\frac{1}{EI_z} \left(-\frac{1}{6} R_o L^3 + C_1 x \right) \\
& = -\frac{1}{EI_z} \left\{ \frac{1}{6} (P - R_o) L^3 - \frac{1}{2} PL \cdot L^2 + 2R_o L^2 \cdot L + \frac{2}{3} PL^3 - \frac{8}{3} R_o L^3 \right\}
\end{aligned} \tag{2.19}$$

式(2.18), (2.19)の連立方程式を解くことで C_1 , R_o を求めることができる.

$$\begin{aligned}
C_1 &= \frac{1}{8} PL^2 \\
R_o &= \frac{5}{16} P
\end{aligned} \tag{2.20}$$

また, 式(2.1)より

$$\begin{aligned}
\frac{5}{16} P + R_A &= P \\
R_A &= \frac{11}{16} P
\end{aligned} \tag{2.21}$$

と求められる. また, 式(2.2)より

$$\begin{aligned}
PL - 2R_A L + M_A &= 0 \\
M_A &= \frac{3}{8} PL
\end{aligned} \tag{2.22}$$

と求められる.

(4) $0 \leq x \leq 2L$ において, SFD および BMD をそれぞれ描け.

(3)で求めた反力 R_o を式(2.3), (2.4), (2.5), (2.6)に代入すると

(i) $0 \leq x \leq L$ のとき

$$\begin{aligned}
Q(x) &= -\frac{5}{16} P \\
M(x) &= -\frac{5}{16} Px
\end{aligned} \tag{2.23}$$

(ii) $L \leq x \leq 2L$ のとき

$$\begin{aligned}
Q(x) &= \frac{11}{16} P \\
M(x) &= \frac{11}{16} Px - PL
\end{aligned} \tag{2.24}$$

と表せるので, SFD, BMD は以下のようになる.

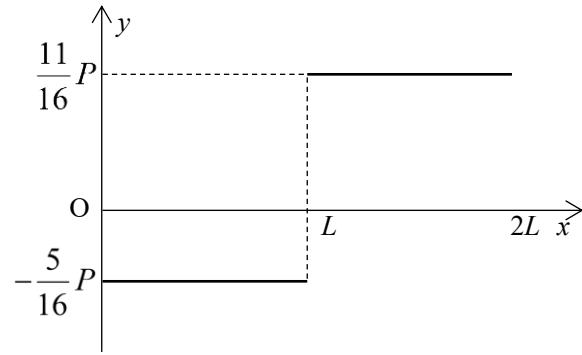


Fig.2.4 SFD.

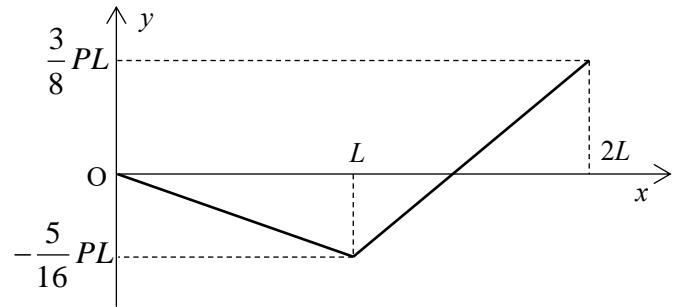


Fig.2.5 BMD.

(5) はりの最大たわみ v_{\max} を求めよ.

たわみ角が 0 のとき、たわみが最大となるので

$$\begin{aligned}
 \frac{dv}{dx} &= -\frac{1}{EI_z} \left(-\frac{1}{2} R_0 x^2 + \frac{1}{8} PL^2 \right) \\
 0 &= -\frac{1}{EI_z} \left(-\frac{1}{2} \cdot \frac{5}{16} Px^2 + \frac{1}{8} PL^2 \right) \\
 x &= \frac{2\sqrt{5}}{5} L
 \end{aligned} \tag{2.25}$$

のときに最大たわみをとる.

ゆえに、大たわみ v_{\max} は

$$\begin{aligned}
 v_{\max} &= -\frac{1}{EI_z} \left\{ -\frac{1}{6} \cdot \frac{5}{16} P \left(\frac{2\sqrt{5}}{5} L \right)^3 + \frac{1}{8} PL^2 \left(\frac{2\sqrt{5}}{5} L \right) \right\} \\
 v_{\max} &= \frac{\sqrt{5} PL^3}{30EI_z}
 \end{aligned} \tag{2.26}$$